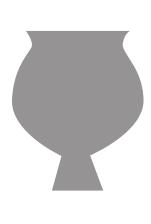
验掘された松本 2013

松本市遺跡発掘報告会



出川西遺跡第10次調査作業風景





平成 26 年 2 月 15 日(土) 午後 1 時〜 4 時 松本市時計博物館 4 階本町ホール

松本市教育委員会

発掘された松本 2013

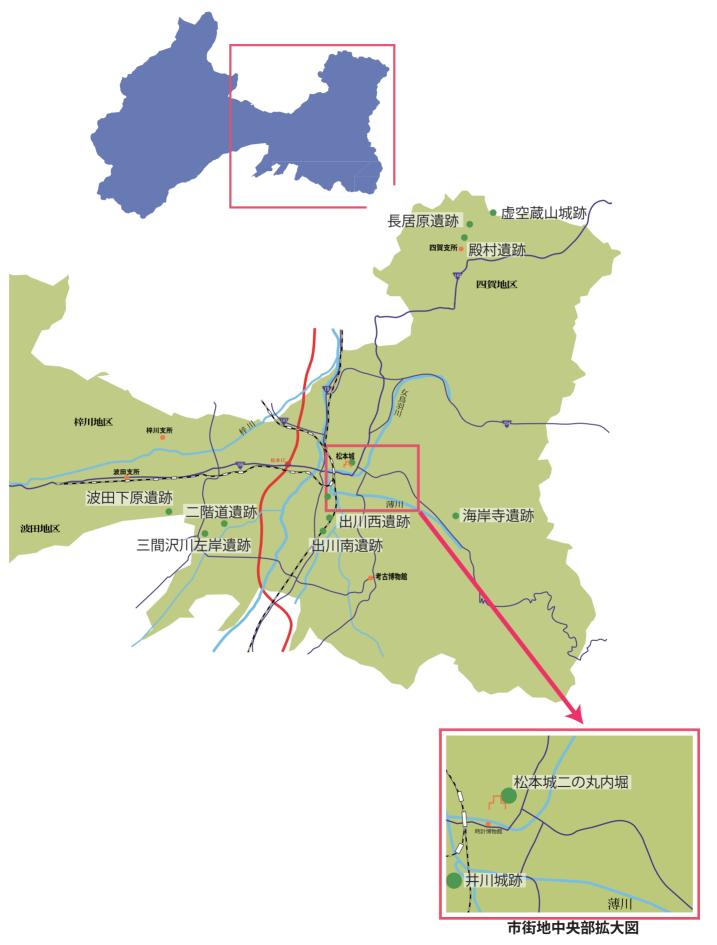
~松本市遺跡発掘報告会~

次 第

平成 26 年 2 月 15 日 (土)

	司	会	松本市教育委員会文化財課係長	竹原	学
13:00	開	会			
13:00~13:05	ご挨	拶	松本市教育委員会教育長	吉江	厚
13:05~13:15	趣旨記	説明・平	² 成 25 年発掘調査の概要 松本市教育委員会文化財課課長	伊佐洲	台裕子
13:15~13:45	事例幸	报告 ①	長居原遺跡第 4 次発掘調査 東海大学文学部教授	松本	建速
13:45~14:15	事例幸	报告②	出川南遺跡第 21 次発掘調査 松本市教育委員会文化財課	福沢	佳典
14:15~14:25	休	憩			
14:25~14:55	事例幸	设告 ③	井川城跡第1次発掘調査 松本市教育委員会文化財課	熊谷	博志
14:55~15:55	講	演	弘法山古墳と出川西遺跡の発掘 〜松本市の埋蔵文化財保護の歩みから〜 松本市教育委員会文化財課	直井	雅尚
15:55~16:05	質	問			
16:05	閉	会			
16:05~	発表	旨・講師	Fによる展示解説・質問(3階企画展示	室)	

平成25年の発掘調査遺跡



平成25年(2013年) 埋蔵文化財発掘調査、報告書刊行一覧表

	遺跡∙調査名	調査期間	調査面積	調査原因	時代	特徴∙備考
1	イテカワミナミイセキ 出川南遺跡第21次	4/22~6/28	341 m²	県住集会所建設	古墳~奈良時代	集落跡
2	イテカワミナミイセキ 出川南遺跡第22次	6/11~12/5	616 m²	市道建設	弥生~平安時代	集落跡、流路
3	イテカワニシ イセキ 出川西遺跡第9次	5/27~12/5	444 m²	市道建設	弥生時代中期	集落跡
4	イテカワニシ イセキ 出川西遺跡第10次	6/27~9/3	1, 450 m²	民間開発	古墳時代	集落跡
5	ミマザワガワ サガン イセキ 三間沢川左岸遺跡第6次	6/4~12/13	1, 961 m²	工業団地造成	平安時代	集落の外郭
6	ミマザワがワ サガン イセキ 三間沢川左岸遺跡第7次	6/11~12/20	963 m²	市道建設	平安時代	古代の用水路
7	=カイウイセキ 二階道遺跡第2次	10/21~1/31	1, 856 m²	市道建設	平安時代、中世	流路等 (和田太子堂遺跡を含む)
8	コクウゾウサンジョウアト 虚空蔵山城跡	7/16~10/31	101 m²	遺跡整備事業	中世	中世遺構群
9	+ガイ ハライセキ 長居原遺跡	9/1~9/10	41 m²	学術発掘 (測量調査を含)	近世・近代	近世遺構 (東海大学が実施)
10	イテカワミナミイセキ 出川南遺跡第23次	7/1~1/31	428 m²	県道建設	弥生~平安時代	集落跡、流路
11	カイガンジ イセキ 海岸寺遺跡	8/1~12/17	5, 800 m²	砂防ダム建設	平安時代・近世	集落跡、石垣 (県埋文センターが実 施)
12	以 45 144 殿村遺跡第5次	9/24~12/20	118 m²	遺跡整備事業	中世	中世遺構群
13	イガワジョウ アト 井川城跡第1次	6/17~3/31	8, 300 m²	確認調査	室町時代	居館跡
14	パーシェハライセキ 波田下原遺跡第3次	11/25~1/31	558 m²	県営畑地帯総合 土地改良事業	縄文時代	集落跡
	マッモト ジョウセキ 松本城跡 ニノマルゴテンアト (二の丸御殿跡 ニシガワウチボリヒガシメンイシガキ 西側内堀東面石垣)	10/31~1/31	70 m²	史跡整備	戦国~江戸時代	城館跡
16	シナイイセキ カケニンチョウサ 市内遺跡確認調査	通年	1, 999 m²	試掘・立会	各時代	試掘75地点
17	新井遺跡 (報告書作成)	通年		土地区画整理	古墳~奈良時代	集落跡
18	県町遺跡第15次 (報告書作成)	通年		高校体育館	平安時代	集落跡
19	殿村遺跡第4次 (報告書作成)	通年		遺跡整備事業	中世	中世遺構群

開	発工	事等	による	市卢	引遺跡 試掘	强確	認	調査一覧	〔平	成25年)
No.	事業者	所在地	原因事業	調査面 積(m²)	遺跡との関係		遺構 等の 有無	検出遺構・遺物	備考	期間
1	民間会社	寿北	店舗	13.20	向原遺跡	該当	なし			1月8日
2	個人	寿北	集合住宅	9.60	向原遺跡	該当	なし			1月8日
3	松本市	和田	市道開設	115.60	三間沢川左岸遺跡	該当	あり	平安•中世遺構	記録保存	1月10~25日
4	民間会社	島立	宅地造成	11.20	新村·島立条里的遺構	該当	なし			1月30日
5	個人	島内	宅地造成	9.80	島内北方遺跡	該当	なし			2月1日
6	民間会社	丸の内	事務所	10.60	松本城跡(北総堀)	該当	なし	堀埋め立て土		2月5日
7	民間会社	島内	宅地造成	16.10	島内高松遺跡	近接	なし			2月7日
8	民間会社	大手	宅地造成	45.20	女鳥羽川遺跡	近接	なし			2月14, 15日
9	民間会社	宮田	宅地造成	10.50	五輪遺跡	近接	なし			2月18日
10	松本市	出川町	市道開設	52.75	出川南遺跡	該当	なし			2月19~21日
11	民間会社	村井町西	宅地造成	18.75	小屋遺跡	近接	なし			3月4日
12	松本市	丸の内	物置	2.00	松本城跡(柳町)	該当	あり	近世整地層、陶磁器	記録保存	3月9日
13	個人	寿豊丘	集合住宅	12.60	向原遺跡	近接	なし			3月12日
14	個人	岡田松岡	店舗	16.20	岡田松岡遺跡	該当	なし			3月14日
15	民間会社	梓川倭	宅地造成	16.80	北大妻東遺跡	近接	なし			3月21日
16	個人	中央	集合住宅	11.60	松本城下町跡 (宮村町)	該当	なし	近代火災層		3月22日
17	民間会社	村井町北	宅地造成	5.80	高畑遺跡	該当	あり	溝状遺構、土師器	現状保存	4月1日
18	民間会社	波田	宅地造成	25. 50	葦原遺跡	該当	あり	縄文住居址、土 器片	工法変更	4月4日
19	松本市	里山辺	林道開設	83. 80	大嵩崎遺跡	該当	なし			3月26日- 4月5日
20	個人	県	老人ホーム	12.30	県町遺跡	該当	なし			4月8日
21	松本市	双葉	仮設建物建設	12.00	出川南遺跡	該当	あり	遺物包含層	現状保存	4月11日
22	民間会社	並柳	宅地造成	11.31	平畑遺跡	該当	なし			4月16日
23	長野県	里山辺	県道改良	12.00	新井遺跡	該当	なし			4月23日
24	民間会社	蟻ヶ崎	宅地造成	86. 55	峰ノ平遺跡	近接	なし			5月1日・7日
25	松本市	城西	公民館	19. 25	(未確認地域)		なし			5月2日
26	個人	野溝西	集合住宅	12.00	野溝遺跡	該当	なし			5月9日
27	個人	蟻ヶ崎	集合住宅	37. 28	峰ノ平遺跡	近接	なし			5月15・16日
28	民間会社	笹部	店舗	24.80	(未確認地域)		なし			5月17日
29	長野県	芳野	県道代替地	94. 90	出川南遺跡	該当	あり	古墳時代遺構遺物	開発未定	5月20-22日
30	個人	里山辺	集合住宅	8.00	惣社遺跡	近接	なし			5月27日
31	民間会社	南松本	店舗	339. 60	出川西遺跡	該当	あり	古墳時代住居 址·土師器	記録保存	5月28日-6月 5日
32	個人	北深志	個人住宅	13.00	松本城跡(北馬出)	該当	あり	馬出遺構、杭列	記録保存	6月10-12日
33	個人	里山辺	老人ホーム	18.40	県町遺跡	該当	あり	溝状遺構、土師器	記録保存	6月13日
34	松本市	丸の内	駐車場整備	12.00	松本城跡(北総堀)	該当	なし			6月17-19日
35	個人	大村	集合住宅	21. 45	大村立石遺跡	該当	あり	古墳時代住居 址、土師器	現状保存	6月20日
36	民間会社	岡田下岡田	宅地造成	29. 05	岡田松岡遺跡	該当	あり	古墳·平安時代 遺構遺物	現状保存	7月3日
37	民間会社	北深志	集合住宅	11. 20	松本城下町跡 (田町)	該当				7月4・5日
38	民間会社	島内	建売住宅	19.50	島内北中遺跡	該当	なし			7月5日

No.	事業者	所在地	原因事業	調査面 積(㎡)	遺跡との関係		遺構 等の 有無	検出遺構・遺物	備考	期間
39	民間会社	小屋南	宅地造成	21.00	小屋遺跡	隣接	なし			7月9日
40	民間会社	島内	携帯基地局	8.00	島内山田遺跡	該当	なし			7月11日
41	民間会社	沢村	老人ホーム	38. 50	狐塚遺跡	該当	あり	須恵器、土師器 (表面採集)	影響なし	7月12日
42	民間会社	岡田下岡田	宅地造成	13.00	岡田松岡遺跡	該当	なし			7月18日
43	個人	横田	集合住宅	13.50	横田古屋敷遺跡	該当	あり	土師器	現状保存	7月30日
44	松本市	双葉	事務所	16.50	出川南遺跡	該当	なし			8月7日
45	松本市	波田	保育園改築	10.80	見付久保遺跡	近接	なし			8月9日
46	民間会社	宮田	宅地造成	6.75	五輪遺跡	近接	なし			8月9日
47	松本市	神田	保育園改築	13.80	神田遺跡	該当	なし			8月14·15日
48	個人	里山辺	老人ホーム	22.00	県町遺跡	該当	あり	平安方形土坑	記録保存	8月19・20日
49	玉	村井町南	病院	70. 70	村井遺跡	該当	なし			8月28·29日、 9月3-10日
50	民間会社	岡田下岡田	宅地造成	10.40	松岡七日市場遺跡	隣接	なし			8月30日
51	個人	城山	集合住宅	9.20	放光寺遺跡	該当	あり	時期不明土坑	記録保存	9月3日
52	個人	波田	個人住宅	8.40	古神遺跡	該当	あり	平安住居址	記録保存	9月6日
53	個人	里山辺	集合住宅	11.80	惣社遺跡	近接	なし			9月12日
54	個人	高宮北	集合住宅	5.00	高宮遺跡	隣接	なし			9月20日
55	個人	岡田松岡	集合住宅	19.50	岡田松岡遺跡	該当	なし			9月26日
56	松本市	惣社・ 里山辺	サッカー練 習場整備	45. 50	大村前田遺跡・大 村塚田遺跡	近接	なし			9月30日-10 月3日
57	個人	開智	個人住宅	7.00	松本城跡(北総堀)	該当	なし			10月7・8日
58	個人	開智	集合住宅	8.40	松本城跡(北総堀)	該当	あり	土塁構築土	記録保存	10月7・8日
59	個人	里山辺	集合住宅	61.85	新井遺跡	該当	あり	平安住居址、土 師器	記録保存	10月9-15日
60	個人	里山辺	賃貸住宅・ 宅地造成	15. 60	下原遺跡	該当	なし			10月11日
61	松本市	県	児童センター	22.75	県町遺跡	該当	あり	平安住居址	記録保存	10月17・18日
62	個人	開智	賃貸住宅	22. 75	田町遺跡、松本城 下町跡(旗町)	該当	あり	近世建物址	記録保存	10月22・23日
63	民間会社	笹賀	事業所	37. 50	下神遺跡	該当	なし			10月29·31日
64	個人	本庄	診療所兼集 合住宅	9. 75	松本城下町跡 (博労町)	該当	あり	近世整地層、木 杭	現状保存	11月1日
65	松本市	芳野	駐車場整備	29. 25	出川南遺跡	該当	なし			11月6日
66	松本市	梓川倭	水利施設	40. 40	岩岡館跡	該当	あり	中世土坑、建物 址、古銭	記録保存	11月8-12日 12月2日
67	個人	横田	老人ホーム	10. 40	大村立石遺跡	該当	あり	縄文溝、土器、 黒曜石	現状保存	11月15日
68	個人	原	集合住宅	14.40	原五反田遺跡	該当	あり	古墳時代遺物	現状保存	11月19日
69	民間会社	出川町	集合住宅	7.50	出川南遺跡	該当	なし			11月25日
70	民間会社	浅間温泉	宅地造成	7. 50	柳田遺跡	該当	あり	時期不明整地 層、縄文土器	現状保存	12月5日
71	個人	筑摩	集合住宅	16.70	筑摩遺跡	該当	なし			12月9日
72	民間会社	村井町南	宅地造成	19. 95	小屋遺跡	近接	なし			12月12日
73	個人	浅間温泉	診療所兼薬 局	9. 75	芝田遺跡	該当	あり	縄文~古墳時代 遺物包含層	記録保存	12月18日
74	松本市	里山辺	農道改良	4. 95	薄町遺跡	近接	なし			12月20日
75	民間会社	波田	宅地造成	26.00	上野遺跡	該当	なし			12月25日

旧石器時代	16000 年前	今回発表の 遺跡年代	松本市内の遺跡や史跡	長野県や全国の遺跡や史跡
縄文時代			川西開田遺跡(神林) 波田下原遺跡(波田)	縄文のビーナス (茅野市) 平出遺跡 (塩尻市)
	前 900 		エリ穴遺跡 (内田)	
	前 300		針塚遺跡(里山辺) 境窪遺跡(神林)	
弥生時代 • • •	0	1	百瀬遺跡(寿)県町遺跡(県)	吉野ケ里遺跡 (佐賀県) 芝宮遺跡の銅鐸 (塩尻市) 纏向遺跡 (奈良県)
	200 — — 400	弘法山古墳	中山 36 号古墳 (神田)	卑弥呼 (~ 248) 森将軍塚古墳 (千曲市)
古墳時代	600	出川南・西遺跡	針塚古墳(里山辺) 平田里古墳(双葉) 中山古墳群(中山) 束間行宮	法隆寺(奈良県)
奈良時代	710 — —			東大寺(奈良県) 信濃国分寺(上田市)
平安時代	794 — —		下神遺跡(神林) 垣原の牧 県町遺跡(県) 三間沢川左岸遺跡(和田) 信濃国府 海岸寺遺跡(入山辺) 海岸寺経塚(入山辺)	吉田川西遺跡(塩尻市)平泉(岩手県)
鎌倉時代	1192 🕳 🕳			
建武の新政 南北朝時代	1334 — — 1338	^		
室町時代戦国時代		井川城跡	殿村遺跡(会田) 虚空蔵山城(中川) 林城(里山辺)	
安土桃山時代	1603 — —		松本城天守	安土城(滋賀県)
江戸時代		長居原遺跡	海岸寺遺跡(入山辺)	

長居原遺跡第4次発掘調査

1. 調査の概要

- (1)遺跡所在地 松本市会田 2885 番地ほか
- (2) 調査の目的 長居原遺跡を構成する石組、道等の時期や性質を明らかにする。
- (3) 調査期間 平成25年9月1日~平成25年9月10日
- (4)調査面積 41 m²
- (5) 主な成果 1) 石積の時期:明治 ~大正期の築造
 - 2) 道の時期: 古くは中世からあった可能性が高まった

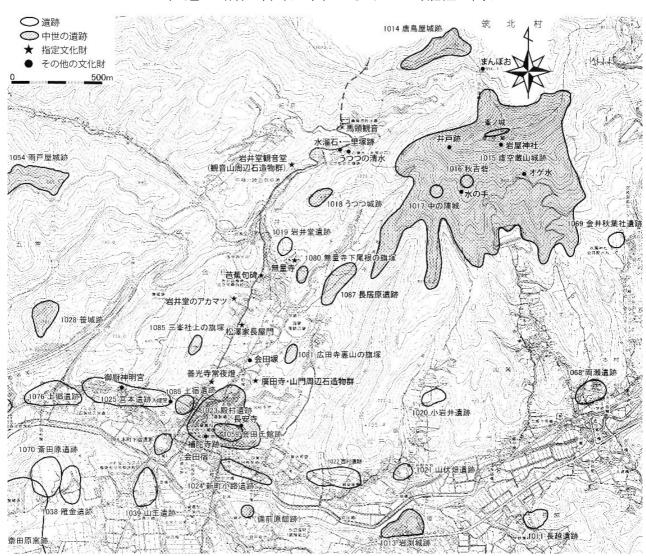


図1 長居原遺跡とその周辺の遺跡分布図(松本市教委2012第5図より)

2. 遺跡の周辺環境と調査に至る過程

長居原遺跡は松本市の北東端に位置する 虚空蔵山南西の尾根上にある新発見の遺跡 です。松本市会田(旧四賀村会田)市街地 の北東およそ1kmに位置し、そのさらに1km

ほど北東に登れば虚空蔵山山頂です(図1)。 遺跡の標高は約720~780m、南西~北東方 向におよそ400m幅、東西方向に100m幅で 尾根上に広がります。

ここは 20 世紀半ばまでは桑畑などとし

て利用されていたようですが、写真1に示したような石積を、いつ誰が何のために築造したのか現在では誰にもわからなくなっていました。旧会田小学校の裏にあった中世の重要な遺跡である殿村遺跡の保存の必要性が叫ばれ始めた2009年4月、会田在住の望月道彦さんに東海大の松本建速が案内され、そこかしこにある石積について、中世の山城との関係を尋ねられました。長居

原は殿村遺跡と中ノ陣などの虚空蔵山域に 広がる山城を結ぶ場所にあたりますから (図1)、その可能性はありますが調査しな ければわかりませんと答えました。

その後、その質問に答えるために、東海大学考古学専攻は2010~2013年まで、4回の調査を実施しました。以下に、1~3次調査結果も踏まえながら、本年度の調査でわかったことを説明します。

3. 調査結果

(1) 石積(2010~2013年度調査)

明治~大正期の築造であることがほぼ明らかとなりました。石積みは平坦地の縁に築かれていますが、平坦地にトレンチを入れて発掘した結果、上面から深さ40~50cmほどまでの範囲には礫はないのですが、それより下には拳大から巨礫まで、様々な大きさの礫が多数埋まっていました。また、明治から大正にかけての時期の陶磁器片がいくらか出土しました(写真3)。山間地を開墾し、土中の多数の礫を取り除き、畑とする土地の脇に石積として積み上げたのが、石積みであることがわかりました。

(2) 道(2013年度調査)

中世(15世紀中葉以降)に整地された可能性が高いことがわかりました(写真2)。整地層から出土したかわらけ片、天目茶碗片(写真3)から、このように推測しました。平安時代くらいの土師器片と思われる破片も多数出土しました。中世の人々が平安時代の生活の跡を壊し、居住域を造成したときの土を、ここに運んできたのでしょうか。

4. まとめと今後の課題

(1)石積とそれを伴う面

石積は明治~大正期に開墾された畑に伴 うと推定しました。時期ごとの作物が何で あったか、最後にはどのような利用であっ たかなどを調べることが今後の課題です。



写真 1 道に沿う石積(2013年度調査Cトレンチ部)



写真2 道と石積(2013年度Cトレンチ部)白線内が道

(2)道

中世の整地がありました。<u>殿村遺跡など</u>山麓の会田氏関連の居住域と山城とを結ぶ目的で利用されていたと推測されます。整地土に含まれる土師器片などから、その生活の場所を造成したときに除かれた土をそ

こから運んだ可能性があります。なぜ、近 くの土ではなく、そのような土を運ぶのか、

より古い時代にも道であったか、それを確 かめることが今後の課題です。



写真3 2013年度調査出土遺物

5. 調査協力者のみなさんへの謝辞

岩下弘一、岩淵洋一、小林広市、聖望学 園、曽根義隆、高橋昌俊、藤松俊紀、降旗 紀子、堀内健二、堀内 勉、松澤恒夫、松 澤強、松澤幸平、三沢信夫(以上、土地 所有者の皆様)。望月道彦、溝口清水、市川 恵一、中島学、松本市会田宿町並み委員会 の皆様、伊佐治裕子、大竹永明、直井雅尚、 竹原 学、宮島義和(以上松本市教育委員会)。

多くの方々のお世話になりはじめて可能 であった調査でした。4年間のご協力に、 調査参加者一同、感謝申しあげます。

6. おわりに

虚空蔵山は古くからこの地域の人々の信 仰の対象だったことでしょう。そして中世 以降、ちょうど殿村で人々が生活していた ころ、そこに向かう道の一つが、長居原に 整備されたのかもしれません。当時の居住 域から山に向かうにはそこが適切だったよ うですが、山が要塞化されていたことと無関 係ではないでしょう。長居原の道は、中世に は、山城へと続いていたのでしょう。

ただし、遺跡と認識される発端となった石 **積は、明治期以降に畑を開墾するときに築造** されたものと考えられました。

以上が、最初に書いた質問への現段階での 私たちの答えです。

人間はいつか生活していたところから去 りますが、土や石、樹木などにその跡が残り ます。それが「遺跡」です。遺跡はどんな人 のことも別け隔てなく後世に伝えてくれま す。長居原遺跡の調査が、会田のみなさんへ 土地の先輩の方々からのメッセージを伝え る役を、少しでも担えたならば望外の幸せで す。

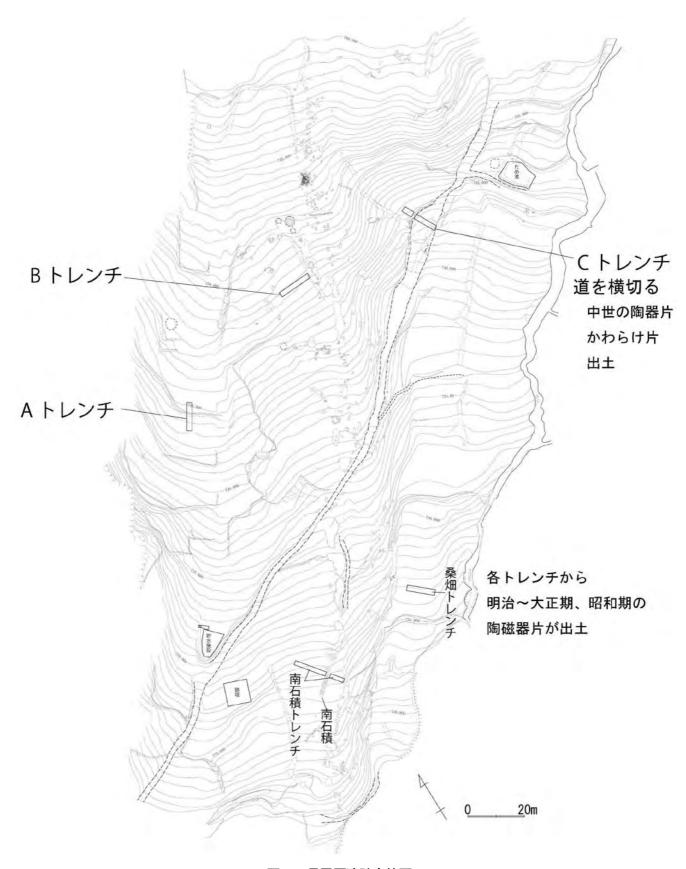


図2 長居原遺跡全体図

出川南遺跡 第21次発掘調査

1. 出川南遺跡とは

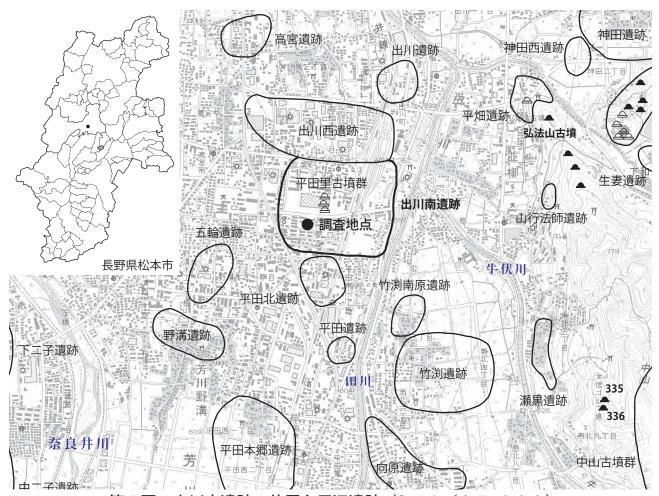
出川南遺跡は、双葉・芳野・出川町に広がる大きな遺跡です。現在までに、23回の発掘調査が行われ、弥生時代中期~平安時代の住居跡が約507軒確認されており、約1000年間にわたって人々が生活していたことがわかっています。

また、縄文時代晩期の土器棺墓、弥生時代後期の方形周溝墓や礫床木棺墓、古墳時代中期の円墳、中世の火葬墓など、各時代の多種多様な墓も見つかっています。特に JR 篠ノ井線より東側を中心に墓域が形成されていた時期があるようです。

遺跡の範囲は広大ですが、時代によって住居跡が密集する場所がわかれているため、時代ごとに集落の中心地が移動していったと考えられます。住居跡の時代をみると、古墳時代後期の住居跡が最も多く、集落が最盛期を迎えたことがわかります。その後、平安時代中期を境に住居数は激減し、集落は衰退していきます。集落が縮小していく理由には様々な要因が考えられますが、生活の基盤を支えていた奈良井川の支流が途絶えたなど、生活用水の確保が困難になったのではないかと考えられます。

出川南遺跡の集落の成立には、遺跡の北に広がる高宮から井川城一帯の豊富な湧水があります。 この豊富な湧水を基盤として、水田・畑などの生産が集落を支えていたことでしょう。おそらく、 北に隣接する出川西遺跡や高宮遺跡、出川遺跡などの一帯が大きな遺跡群と言えるでしょう。

また、今年度の出川西遺跡 10 次調査によって、古墳時代前期の集落が発見されたことによって、 弘法山古墳との接点が明らかになってきました。出川南・出川西遺跡の集落は、弘法山古墳を造 営した有力者が率いることで大規模な開発が始まり、その後、古墳時代後期は出川南遺跡を中心 に集落が展開していきます。古墳時代後期の人々は、中山古墳群に墓域を形成したと考えられます。



第1図 出川南遺跡の位置と周辺遺跡(S=1/25,000)

2. 過去の調査成果



1次	昭和 61 年	1325㎡ 住居 5(弥生後期 1, 古墳前期 1, 平安前期 1, 平安後期 1), 竪穴状遺構 1, 掘立建物 1 ほか	
2次	昭和 63 年	1715㎡ 住居 1(古墳後期), 土坑 26, ピット 61, 溝 1	
3次	平成元年	900㎡ 住居 6(古墳後期~平安前期)	
4次	平成3年	4688㎡ 住居 116(古墳後期 113, 平安前期 2, 平安後期 1), 掘立建物 21, 柱列 2 ほか	
5次	平成 10 年	281㎡ 住居 11(古墳後期 1, 奈良 1, 平安前期 5), 土坑 6, ピット 11	
6次	平成 10 年	1468㎡ 住居 4(弥生後期前半 3, 古墳後期 1), 竪穴状遺構 2, 掘立建物 3, 土坑 3, ピット 55 ほか	
7次	平成 10 年	867㎡ 住居 50(古墳後期~奈良 11,平安前期 39),掘立建物 1,土坑 175,ピット 13 ほか	
8次	平成 11 年	3293㎡ 住居 48(古墳後期 7, 奈良~平安 23), 掘立建物 1, 土坑 144, 遺物集中 2(古墳中期) ほか	
9次	平成 11 年	240㎡ 住居 2(古墳後期),土坑 4,ピット7,遺物集中 2(古墳前期)	
10次	平成 11 年	560㎡ 住居 4(平安前期),ピット 5,溝 1	
11 次	平成 13 年	188㎡ 住居 3(弥生後期 1,平安後期 2),土坑 7,ピット 234,溝 1	
12 次	平成 13 年	2197㎡ 住居 13(古墳後期 1,奈良 10,平安 2),土坑 34,ピット 70	
13 次	平成 14 年	25㎡ 住居 2(時期不明 2)	
14 次	平成 19 年	383㎡ 住居 2(古墳後期 2),掘立建物 2,土坑 9,ピット 11,溝 5	
15 次	平成 21 年	1839㎡ 住居 15(古墳後期 2, 奈良 4, 平安前期 9), 土坑 29, ピット 39, 溝 8, 石積遺構 1	
16 次	平成 23 年	89㎡ 溝 2	
17 次	平成 22・23 年	4624㎡ 住居 106(弥生中期 32, 古墳 54, 奈良~平安 16, 中世 4), 埋葬施設 38(縄文晩期~中世) に	まか
18 次	平成 24 年	2362㎡ 住居 70,掘立建物 12,土坑 222,ピット 151,溝 7	
19 次	平成 24 年	158㎡ 住居 1(弥生), 土坑 8, ピット 2, 火葬墓 1, 溝 3	
20 次	平成 24 年	502㎡ 住居 9(古墳中期 3,古墳後期 6),掘立建物 1,溝 3 ほか	
21 次	平成 25 年	341㎡ 住居 12(古墳後期 10,奈良 2),土坑 1,ピット 8	
22 次	平成 25 年	616㎡ 住居 20(弥生~平安), 掘立建物 1, 竪穴状遺構 5, 土坑・ピット多数, 溝 3	
23 次	平成 25 年	428㎡ 住居 7(古墳前期~平安),掘立建物 1,土坑・ピット 80,溝 16	

第2図 出川南遺跡の過去の調査地点(S=1/10,000)

3. 過去の調査成果

調査の原因:県営住宅南松本団地・市営住宅芳野町団地の集会所建設事業

調査期間 :平成25年4月22日~6月28日

[・]調査面積 :341㎡(遺構面1面)

・検出遺構 :竪穴住居址12軒(古墳時代後期10軒、うち2軒は焼失住居。 奈良時代2軒)、土坑1基、

ピット9基

出土遺物 : 古墳時代後期~奈良時代の土器:土師器、須恵器

金属器:鉄製馬具(轡)、鉄地金銅張の耳環、刀子、鎌、鏃

石器:砥石、台石

焼失住居:576号住居跡(古墳時代後期)

炭化材が住居跡中央にまとまって出土しました。写真は北から撮影したものです。南北方向に長い建築材が1本あり、そこから東と西に建築材が放射 状に残っています。



第3図 遺構概略図(S=1/150)



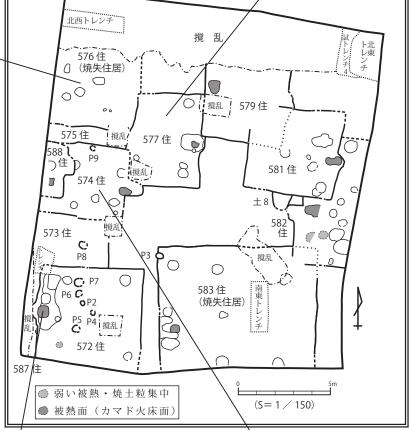


↑復元建物の設計図

『史跡平出遺跡 環境整備事業報告書』 塩尻市教育委員会より引用・加筆



塩尻市 史跡平出遺跡 の復元建物





572 号住居跡:カマドの土器出土状況



574号住居跡:礫廃棄状況

4. 大型住居址:583 号住居跡

調査区南東で見つかった 583 号住居跡は 1 辺が約 8.6 mの大型住居跡です。南側が調査区外に続いているため全形は不明ですが、床面積は推定で 6.4 m となります。当時の一般的な住居跡が $4\sim5$ m ですので、 $2.5\sim4$ 倍の床面積です。床面直上に焼土と炭化材が多く堆積しており、焼失住居と考えられます。床面に残された土器の多くが熱を受けて割れていたり、すすが付着しています。炭化した屋根材の上にも多くの土器が出土しており、焼失後のくぼみに土器を捨てたものと考えられます。

また、鉄製の馬具の一部や耳環(耳飾り)など特殊な遺物も出土しました。いずれも竪穴住居跡から 出土することは少なく、この大型住居跡の性格を裏付けています。

古墳時代後期の住居跡がまとまって見つかっている 4 次調査地点では、大形住居址の周りに小型の住居が $1\sim2$ 軒、掘立柱建物跡が付属する小単位が復元できます。大きな集落の中にいくつかのグループが存在し、中心的な役割をもつ住居は大形であったり、特殊な遺物が出土したりしています。

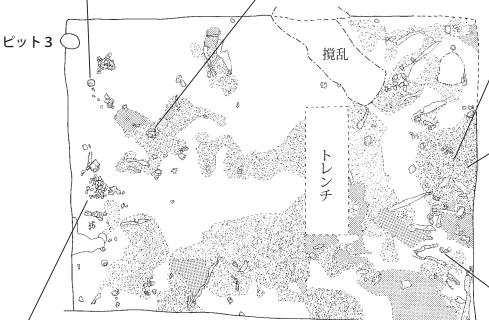


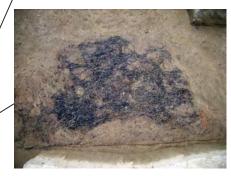




2~3枚の杯が重なった状態 で出土しています。

耳環出土





建築材の他に、細かい炭化材も 出土しています。屋根に葺かれて いたカヤなどでしょうか。 現在、分析中です。

第4図 583 号住居跡:炭化材・遺物出土状況 (S= 1/80)



←須恵器の甕と土師器の甕がバラバラ に割れた状態で出土しています。

カマドの脇に据えられていたものと 考えられます。

鉄製 馬具(くつわ)出土→



5. 参考資料:馬具と耳環



↑ 参考資料:旧更級郡の古墳出土 轡

『国立歴史民俗博物館資料図録8 古墳関連資料』 国立歴史民俗博物館より引用・加筆



↑参考資料

群馬県太田市塚廻り3号墳「杯を持ち椅子に腰かける巫女」

埴輪は、当時の人々の姿を教えてくれます。

この埴輪は比較的身分が高い巫女で、首や腕、足に玉 飾りをつけており、耳には耳環がついています。

耳環も馬具も、全ての住居跡が出土するわけではなく、 当時も所有者が限られるものであったと考えられます。 『図説はにわの本』群馬県立歴史博物館より引用



↑ 参考資料:

群馬県吉井町神保下條2号墳「飾り馬」

馬の口に噛ませて、手綱をつける金具が 轡です。

今回出土したものは轡の中でも、馬の口に噛ませている銜と考えられます。

一部分だけですが、あまり装飾性が見られず、 実用的なものと考えられます。

『図説 はにわの本』 群馬県立歴史博物館より引用・加筆

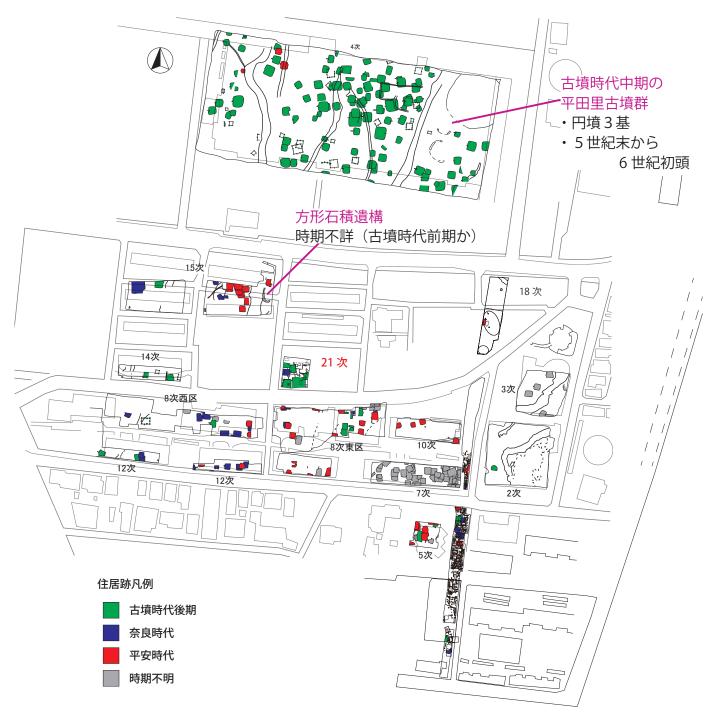


↑ 参考資料:

みなみがた

南方古墳出土耳環(入山辺)

今回出土している耳環も銅製ですが、 南方古墳のものと同じように金鍍金されていたかは現在はわかりません。



第21次調査地周辺の遺構概略図(S=1/2,500)

6. まとめ

出川南遺跡では、弥生時代中期から平安時代までの住居跡が見つかっており、松本市内の遺跡の中でも、古くから開発が行われた大規模な集落であることがわかっています。住居数が最も多くなるのが古墳時代後期であり、4次調査地を中心として広い範囲に集落が拡大したことがわかります。

本遺跡の北東約1.8kmに、古墳時代前期の弘法山古墳があり、南松本一帯にその造営者の 集落があったと考えられます。出川南遺跡では古墳時代後期を中心とした集落が展開しており、 古墳時代前期から続く人々が営んだ集落と考えられます。

古墳時代中期後半も、平田里古墳群が造営されていることから考えても、今後、北に隣接する出川西遺跡や、出川南遺跡の別の地点に古墳時代中期の集落の中心地が見つかる可能性があります。

井川城跡第1次発掘調査

1 調査の概要

- (1) 調査地の所在 松本市井川城1丁目
- (2) 調査の目的 井川城の範囲と内容を確認するための学術調査
- (3) 調査期間 平成25年6月17日~継続中
- (4) 調査面積 対象面積 8300 m²

2 井川城の概要

井川城は信濃守護小笠原貞宗(1292-1347)が伊那郡松尾から居館を移したとされる場所で、1340年頃までに館を移した後、15世紀後半に林城に移るまでの間信濃の政治の中心であった城館です。松本市では昭和42年(1967)に櫓(やぐら)跡と伝えられる塚を市の特別史跡に指定していますが、発掘調査による遺構・遺物の確認は今回が初めてです。

井川城に関する記述は『信府統記』(資料 1)や『諏訪御符礼之古書』(資料 2)があります。これにより小笠原氏が林城や深志城を築く以前に堀に囲まれた居館を構えていたことは辿れますが、文献に記された「井川城」と、今回の発掘調査で明らかになった遺構が同一のものであるのかは慎重に検討する必要があります。

3 調査の成果

今回の調査では以下のことが明らかになりました。

- (1) 居館推定範囲内は湿地の中の小高い場所に厚さ 1m 程の盛土を行っている。
- (2) 盛土は切岸(堀に接する斜面)から 5~6m の範囲に良質な粘土を使用していて、分布範囲や断面構造から土塁があった可能性がある。
- (3) 門跡の可能性がある礎石を確認した(『信府統記』の記述に当てはまるものか)。
- (4) 居館の周りには水路が巡っている(中世では「堀」は水路をさす言葉でもあった)。
- (5) 水路(堀)の堆積物からサイカチの花粉が見つかり、館の周りには防御のためにサイカチを植えていたと考えられる(江戸城、忍城に次ぐ三例目の発見とのこと)。
- (6) 堀の東には湿地が広がり、その上を粘土で埋めて建物を造っている。

4 今後の課題

今回の調査により中世に大規模な造成が行われていたことがわかりましたが、信濃守護の館と断言できる規模の建物跡や、政治の痕跡(宴会の跡)は見つかりませんでした。また、櫓跡と伝えられる塚の性格はまだわかっていません。館の内側だけでなく、外に広がる遺構が何なのかも含めて、今後検討していかなければなりません。

(「井川の古い城のあと 祖先の夢を思うては」『鎌田小学校校歌』より) どうやら、まだまだ夢を追い求めることができそうです。

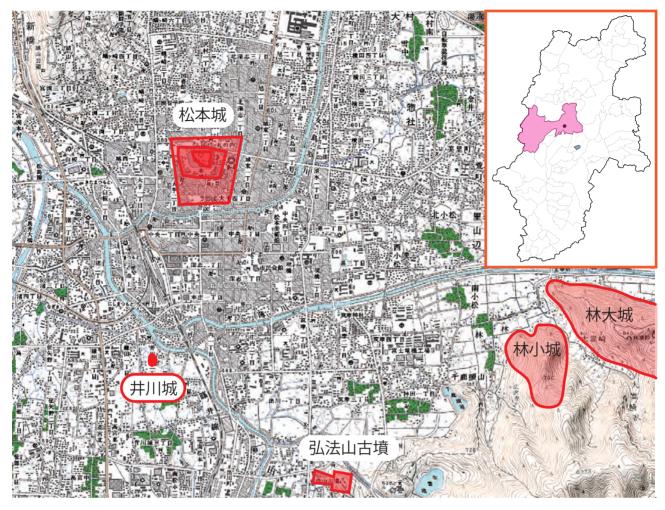


図1 井川城の位置とその周辺(縮尺不定)



写真 1 井川城航空写真(左が北)



図2 調査区の位置と概要

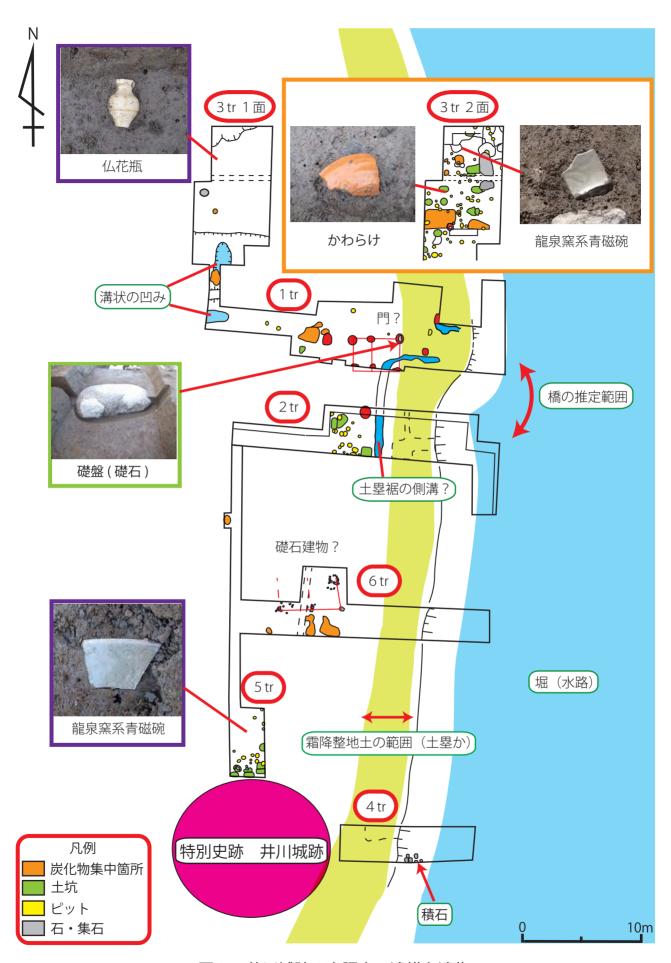
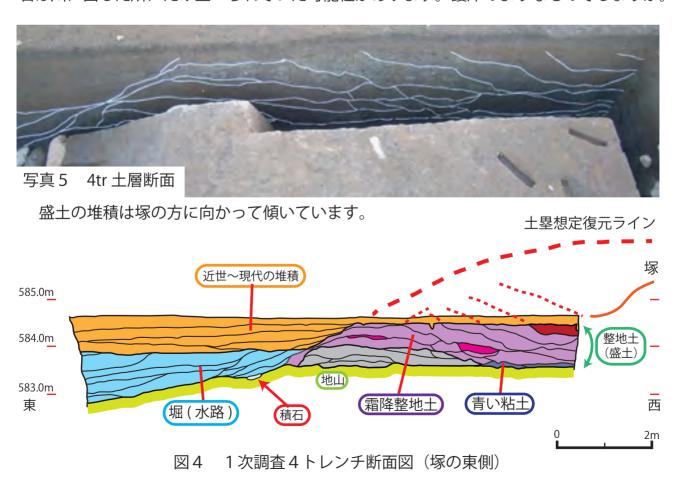
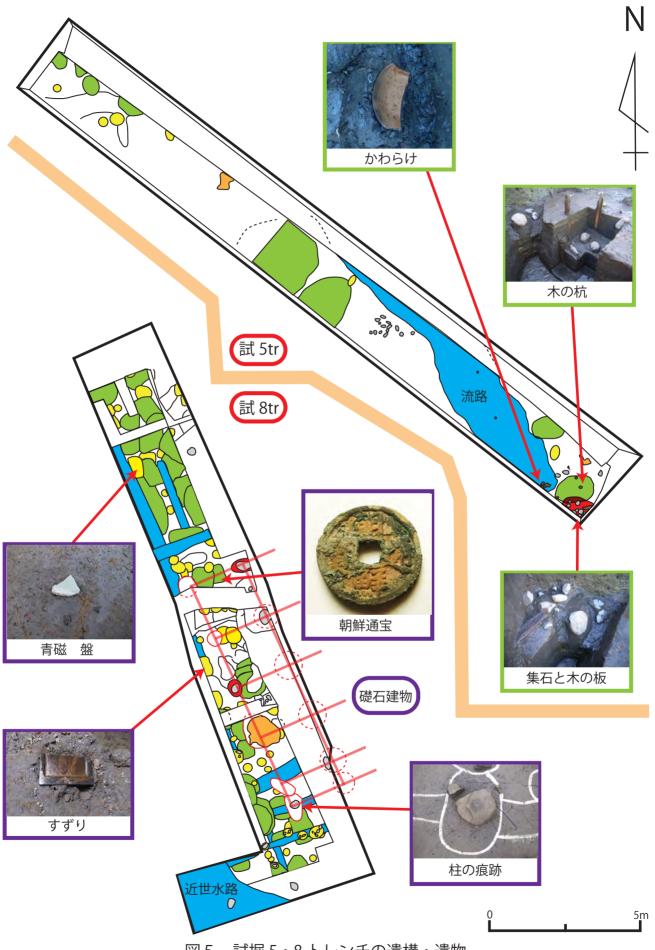


図3 井川城跡1次調査の遺構と遺物



石は川に面した所にだけ並べられていた可能性があります。護岸のようなものでしょうか。





試掘5・8トレンチの遺構・遺物 図 5

資料 2

『信府統記』

松本藩主の命により編纂、享保九年(1724)に完成

松本ノ城
此地信州府中ニテ、所ノ名ヲ庄内ト云フ、古此辺ヲ深志トモ又深瀬トモ称ヘ来レリ、

『信濃史料』 第八巻 、昭和三十二年発行

「諏訪御符礼之古書」

そえて井川堀に撒いた。神罰にあたった。諏訪の神長守矢氏が切られた榊に神灰をれていたが、これを清宗の家来の征矢野源四郎が切って深志には諏訪神社の御頭が当たっていたので、榊が立てらいたので、娘が立てらいたにに、飯田の小笠原政秀が松本へ攻め込んだ。この

小島村古城地井河ノ城ト称ス、沼城ナリ、

> 直雅深 ニ小売 内笠坂 應原西 ス政光

「諏訪御符禮之古書」○武助都等野町 守矢真幸氏所蔵 十五日、小笠原政貞、伊那郡伊賀良ョリ筑摩郡府中ニ入リ、小笠原宗清ヲ攻ム、

七月大 甲子朔

應仁二年刊花會

中(建立等)
・ (養養)
・ (大田)

[訓読] 施七二年[戊子]花會

講演資料 弘法山古墳と出川西遺跡の発掘

~松本市の埋蔵文化財保護の歩みから~

松本市教育委員会文化財課 直井雅尚

1 弘法山古墳の発見と発掘 ~弘法山古墳の発見から 40 年~ 弘法山古墳発見の前史と予兆 発見と発掘の経過 保存と史跡指定 当初からの疑問、変転する見解 未報告資料の発見と対応、再整理の実施、県宝指定 課題と問題 発掘体制の整備と遺跡保護

2 出川西遺跡の発掘

南松本一帯の遺跡

過去の発見や記録

本格的な発掘調査の開始、驚きの成果の連続

塗り替えられる南松本の歴史

民間開発と発掘

対応の歴史

出川西遺跡第10次調査に至る軌跡

発掘作業の実際

現地見学会の実施

出川西遺跡第10次調査の成果が意味するもの

3 松本平南部における古墳時代の始まり

遺跡分布に見る発展

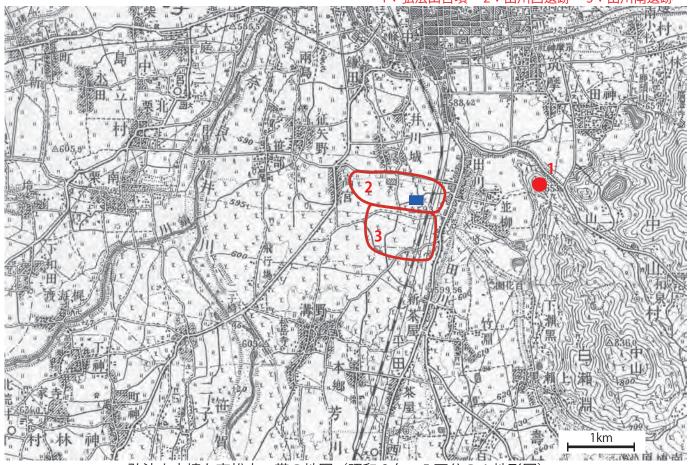
弥生時代の遺跡の広がり

東海地方の文化の流入

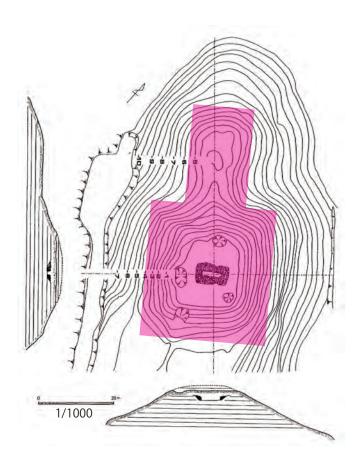
集落と墳墓(ムラとハカ)

シナノの中で

1:弘法山古墳 2:出川西遺跡 3:出川南遺跡



弘法山古墳と南松本一帯の地図(昭和8年、5万分の1地形図)



弘法山古墳の測量図(上が北)



弘法山古墳の航空写真



弘法山古墳の墳頂から北アルプスを望む











多くの見学者に囲まれて進む竪穴式石室の掘り下げ



掘り上がった竪穴式石室。蓋石はなかった。



石室内から出土した銅鏡。割れたのか割ったのか?



石室内から出土した斧(左)、剣(右上)、鏃(中央他)

弘法山古墳の発掘調査写真(昭和49年)



銅鏡(裏面)



同左(表面)



鉄器(斧、剣、ヤリガンナ)



壺 1



壺 2



壺 3



手焙形土器 (てあぶりがたどき)



高坏1

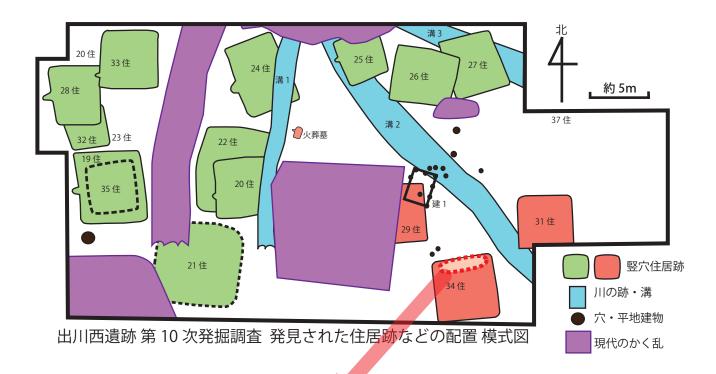


高坏2

弘法山古墳出土の遺物



壺形土器 (左:中山 36 号墳、右:出川) 参考:中山 36 号古墳、出川出土品







左の土器を接合・復元しました

34 号住居の土器出土模式図



地元の土器と濃尾地方の土器の比較



出川西の壺(地元)



弘法山古墳の壺(濃尾)



出川西の高坏(濃尾)



出川西のヒサゴ壺(濃尾)

